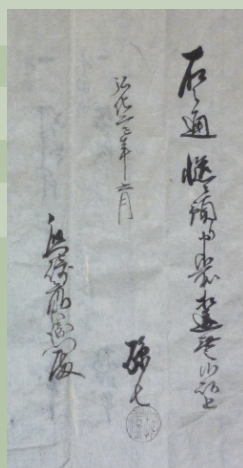




下呂市教育委員会・下呂ふるさと歴史記念館

博物館だより

第22号
2017.3



(中略)

覚（名主交替之節、帳面預り目録）／弘化2年（1845）／今井信治氏所蔵

萩原町村の名主が熊崎彦右衛門から孫七に交替する際に引き渡した、村の文書を記した目録。後任者の孫七が受領証として作成したものです。内容は、検地帳や地改帳、年貢割付状、年貢皆済目録など、すべて土地・貢祖に関する文書です。このように、村では文書が保管・管理され、名主が交替する際には、その目録とともに引き継ぎが行われました。

- ただいま、文書整理中 ―「萩原町村史料」―
- 企画展「飛騨の街道を歩く～先人の足跡をたどる～」を開催しました
- 平成28年度に指定・登録された文化財の紹介
- 人気です「ふるさとの歴史講座」

ただいま、^{もんじょ}文書整理中 — 「萩原町村史料」 —

「萩原町村史料」が伝わった飛騨国益田郡萩原郷萩原町村（現在の下呂市萩原町萩原）は、飛騨川の左岸流域に位置し、南北に飛騨街道（益田街道）が通る市街地です。古くから多くの人が行き交う宿場として繁栄し、現在でも萩原町の中心市街地として賑わいをみせています。

萩原地区には現在、自治会で保管されてきた文書や、村役を務めていた家などに伝わった文書が残っており、これらを総称して「萩原町村史料」と呼んでいます。

現在下呂ふるさと歴史記念館では、下呂市内の文書整理を行っており、平成 28 年度は自治会が保管していた「萩原町村文書」と、「今井孫七家文書」の整理に取りかかっています。

「萩原町村文書」は、萩原地区に伝来した約 200 点からなる文書です。江戸時代中期から昭和に至るもので、近世文書には金銭の借用証文や田畑の譲渡証文等の貸借関係の文書が多く、近代文書は野取絵図帳など土地・貢租^{のとり}関係の文書が大半を占めます。

「今井孫七家文書」は、江戸時代から萩原町村の名主役を代々務めてきた今井家に伝わる文書です。江戸時代中期から明治初期に至る約 320 点の文書は、家産関係の文書と村政に関する文書で構成され、特に土地・貢租、貸借、山林関係のものが多く含まれます。

このほか両文書群には、萩原町村の名主が地域で起こった出来事や役所とのやりとりを書き留め

た記録類、明治 2 年に起こった梅村騒動に関する記録、萩原宿に関する文書、萩原町村から対岸へ益田川を渡る渡船に関する文書等がみられます。

「萩原町村史料」は、『萩原町史』編さん期に整理がなされ、年代と簡易な表題を記した目録が作成されました。

今回は、文書を長期的に保存し、利用と管理をしやすいするため、再整理と新目録の作成を行っています。新目録作成にあたっては、旧目録の記述内容と実物 1 点 1 点を照らし合わせた上で、文書の内容がわかるよう題名を補い、文書が誰から誰に出されたか、どのような形か、どのように保存されていたかを記すなど内容を増補しました。また、未整理で目録化されていなかった文書も目録に加えました。文書の保存措置としては、酸性紙封筒に入っていた文書を、長期的保存に耐える中性紙封筒へ入れ替え、1 つの封筒に複数がまとめて納められたもの（写真 1）は原則 1 点ずつを封筒へ収納しました（写真 2）。

こうした作業を行うことで、文書の管理や閲覧、問い合わせへの対応が以前よりスムーズに行えるようになりました。

今後、多くの方々に文書を活用していただけるよう、目録の公開に向けてさらに作業を進めていきたいと思っています。昨年度整理の完了した『中呂^{ちゅうろ}村文書目録』は、市図書館で閲覧ができるほか、下呂ふるさと歴史記念館 Web ページからも閲覧ができます。



写真 1 再整理前の文書



写真 2 再整理後の文書

企画展「飛騨の街道を歩く～先人の足跡をたどる～」を開催しました

下呂ふるさと歴史記念館では、平成 28 年の秋に「飛騨街道を歩く～先人の足跡をたどる～」展を開催しました。本展は、岐阜県博物館協会創立 50 周年記念事業の地域連携企画として実施されたものです。

現在の下呂市を南北に貫く国道 41 号線は、かつて飛騨街道（益田街道）と呼ばれ、江戸時代以来、多くの人が往来し、またさまざまな物資が行き交う、飛騨の「動脈」ともいえる街道でした。

展示は 3 つのテーマで構成され、絵図・古文書・現況写真・出土遺物と、多彩な歴史資料を用いて街道の今と昔を振り返りました。

テーマ 1 では、「道はどのように描かれたか」を取り上げました。ここでは、下呂市の中程にある中呂村の絵図 3 枚を題材に、同じ構図の絵図の移り変わりの中から、絵図の意味を読み解きます。絵図には、他の村との境界になる目印がはっきりと書かれ、また山・川・谷・耕地・民家が記

入されています。とりわけ、村を通る飛騨街道は、太い朱色の線で示されています（写真 4）。道を特に目立つ朱を用いて着色する手法は、江戸時代の村絵図に多く見られ、幕府にとって道が重要なものであったことが窺えます。

また、文化 11 年（1814）に伊能忠敬の一隊が飛騨街道を北上して測量を行い、精密な地図作りを行ったことは特筆すべきことです。

テーマ 2 では、「江戸時代の道を通った“もの”」を取り上げました。最近、市に寄贈された「和佐村御用廻状・願書留書」は、天保 13 年（1842）から天保 14 年（1843）の和佐村の名主らが事細かに書き留めたものであり、今から 175 年前の和佐村の様子が実によくわかります。幕府領の飛騨では領地の境界に番所を設け、そこを通過し飛騨に持ち込まれる様々な物資がありました。砂糖や菓子、古着といったものもあります。

また、当時、世の中は質素・倹約の風潮が強く、飛騨の村々に芝居や花火の自粛、ぜいたくな服装の禁止といったお触れが出回っていました。

最後のテーマ 3 では、「土の中から発見された街道沿いの史跡」を取り上げました。市には今に残る貴重な史跡として、江戸時代の道である「初矢峠の石畳」があります。峠越えのその道沿いには、石仏のほか、今から約 2 万 5,000 年前の旧石器時代と、約 6,000 年前の縄文時代の遺跡である初矢遺跡があります。古い時代から初矢峠の周りに人々の往来があったことがわかりました。



写真 3 企画展示室の様子



写真 4 中呂村絵図（元禄 7 年～宝永 3 年頃）

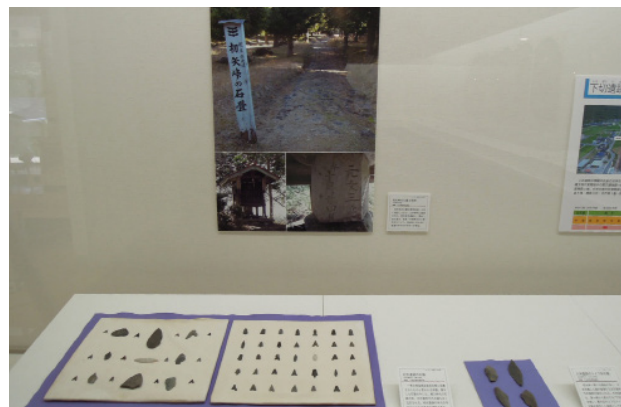


写真 5 初矢峠の現況写真と周辺遺跡出土遺物

平成28年度に指定・登録された文化財の紹介

● 国登録有形文化財 天領酒造店舗兼主屋^{しゅおく} (登録番号 第21号-0243号)

「天領酒造店舗兼主屋」は、家伝によると明治44年(1911)頃の建築で、客人を迎えるオクノマなどを大正4年(1915)に増築しています。

街道側に出格子を設ける店舗があり、玄関に雨や雪の降り込みを避けるこの地方特有のハシリコミを設け、トオリドウジと呼ばれる家屋を貫く土間の廊下があります。当地の標準的な町家構えが残されている建物として、登録されました。

(所在地：下呂市萩原町萩原)



国登録有形文化財 天領酒造店舗兼主屋



国登録有形文化財 花田今井家住宅主屋

● 国登録有形文化財 花田今井家住宅主屋と他3件 (登録番号 第21号-0245～0248)

文政12年(1829)に建替えられた養蚕対応の大型農家で、昭和24年に医院として洋館部分が増築されました。また、敷地には現在では希少となった水車小屋が残り、かつての大規模農家の様相を今に伝えています。屋敷全体が、蔵・水車小屋・白壁の塀とも合わさって、御厩野^{みまの}の山里の景観に寄与していることから、登録されました。

(所在地：下呂市御厩野)

人気です 「ふるさとの歴史講座」

下呂市では、市が収蔵・保管する近世・近代文書の活用の一環として、「ふるさとの歴史講座」を夏・秋の年2回開催しています。今年度は「願書留を読む」ことをテーマとし、和佐村と萩原町村の文書を読むことで、当時の村の状況や幕府への切実な願いの内容を学び、地元の記憶をたどりました。

講師の福井重治先生のわかりやすい解説と、受講者からの活発な質疑が特徴の講座で、今年度で開講10年目と大変人気の講座です。



夏・ふるさとの歴史講座(下呂市民会館)

《編集後記》

「和佐村御用廻状・願書留書」は、175年前の人と人、村と村の結びつきが克明に記録された文書で、中原の小学生にも紹介させて頂きました。地域の記憶を次世代につないでいくためにも、歴史資料の保全に取り組みたいと思います(馬場)。

博物館だより 第22号

発行日 平成29年(2017)3月31日

編集・発行 下呂市教育委員会・下呂ふるさと歴史記念館

〒509-2517 下呂市萩原町萩原1166-8 下呂市教育委員会

電話 0576-52-2900 FAX0576-52-3166